

第1版

福祉教育

ハンドブック



発行 社会福祉法人
沼津市社会福祉協議会

発行日 令和5年4月

電話 055-922-1500

E-mail info@numazu-shakyo.jp

URL <https://numazu-shakyo.jp/>



社会福祉法人
沼津市社会福祉協議会

1 福祉と福祉教育

地域福祉とは?2
 福祉教育とは?2
 なぜ福祉教育が必要なのか2
 (福) 沼津市社会福祉協議会とは?2
 福祉教育の効果2

2 企業の社会貢献活動

企業の社会貢献の種類と方法3
 設備・施設貸与4
 生活支援サービス(ちょいてつ)4
 災害ボランティア活動4
 居場所の立ち上げ4
 赤い羽根募金箱設置4
 寄付4

3 福祉教育の進め方

福祉教育「学びのプロセス」の提案5
 福祉教育のお申し込みについてのお願い6
 福祉教育プログラム表7
 プログラム①福祉講話8
 プログラム②車いす体験9
 プログラム③見えない生活盲導犬って何?9
 プログラム④アイマスク体験9
 プログラム⑤点字体験9
 プログラム⑥手話講話10
 プログラム⑦高齢者疑似体験10
 プログラム⑧募金活動をししてみよう10
 プログラム⑨ボッチャ体験10

1 福祉と福祉教育

地域福祉とは?

子どもから高齢者まで、同じ地域で暮らす人たちが、人とのつながりと支え合いを中心とした活動を展開し、誰もが幸せを感じることのできる地域を作っていくことです。そのためには住民の1人ひとりの“自助”だけでなく、住民同士の“互助”や“共助”、そして行政による“公助”が一体となって、ともにつながり、ともに支え合う、元気なまちづくりを進めていくことが大切です。



豆知識・「福祉」は **ふ** だんの **く** らしの **し** あわせとも言われています。

福祉教育とは?

地域住民が幸せに暮らしていくためには何をすればいいのか。普段の暮らしの中で生活課題を解決するためにはどのようにすればいいのか。近年の社会情勢の急激な変化に伴って発生している福祉課題に対し、様々な人とともに考え、実践する力を育むことが「福祉教育」と言えます。また福祉教育を通して他者とお互いに存在を認め合い、関わりについて考えるきっかけにもなります。

なぜ福祉教育が必要なのか

福祉教育は小中学生だけでなく、若年層から高齢者層まで幅広い人に必要な学びであります。なぜなら福祉は特定の人のためのものといった特別なものでなく、だれしも身近なものであるからです。この認識を広めていくためにも社会教育や学校教育の中で福祉教育を取り入れ福祉を学ぶ場を作り上げていくが必要になるからです。

(福) 沼津市社会福祉協議会とは?



(福) 沼津市社会福祉協議会(以下、沼津市社協)は、地域福祉の推進を目的としている民間の団体です。行政の福祉のみでは十分に対応できない課題の解決や支援の方策を展開できる公的団体として組織されました。地域のみみんなで支え合い、幸せに暮らせるよう地域福祉活動や福祉サービスを展開しています。

豆知識・略して「社協」とも呼ばれます。

福祉教育の効果



事前学習

何について学ぶのか、最終的に参加者自身の身近な生活につながるのか、学びの興味や関心を明確にします。体験の前に参加者が「なぜかな?」「もっと知りたい!」と思えるような場を設定します。



体験

事前学習で出ていた意見などを講師、ボランティア、社協等で事前に共有し、それを参加者たちと振り返りながら体験していきます。体験を通じて何を感じてほしいか、直接伝えるのではなくあくまで気づきや変化を促します。



事後学習

体験の感想を記入して終わりではなく、意見の交換や発表を行うことでこれまでの活動の振り返りを行います。自分自身が感じた気づきや変化を、周囲の人と共有することにより新たな課題の発見に繋がります。

2 企業の社会貢献活動

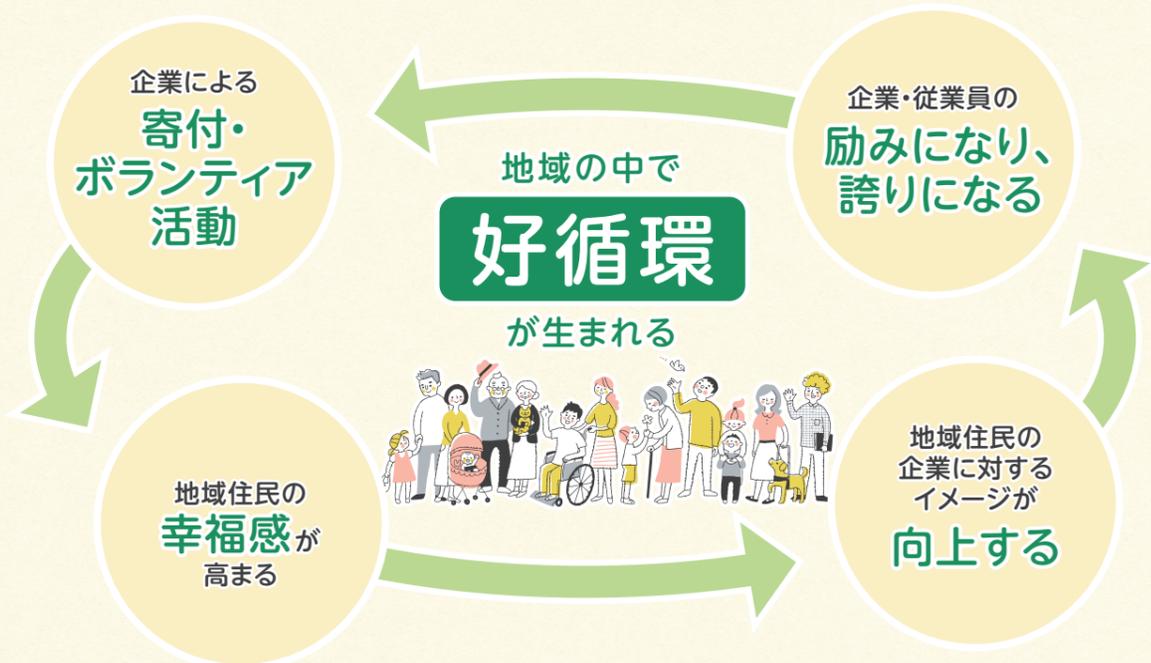
「準備が大変」、「コストがかかる」、「何をしたいのかわからない」。いざ社会貢献活動をしように思っても、企業が常時の業務と並行して企画していくのはとても大変です。

まずは無理のない範囲で、「どんなことが地域福祉?」、「地域と一緒に何かできるかな?」というイメージをつかみ、これからの取り組みを考えるきっかけとしてご覧ください。



企業の社会貢献の種類と方法

社会貢献活動を大きく分類すると「人的支援」、「経済的支援」、「物的支援」の3種類に分けることができます。誰(個人・組織・地域など)に対して、どのように(人的・物的・経済的など)、いつ(時期・頻度・回数など)貢献したいのかを考えることで、取り組みたい活動が明確になってくるのではないのでしょうか?



設備・施設貸与

企業が持つ福利厚生施設(体育館、グラウンド、広場、図書室)を開放することで、地域住民や文化・芸術・スポーツの振興に貢献できます。地域の子どものための会社見学・施設見学を実施することも有意義です。

片浜地区に本社を構える株式会社コーゲツさんの駐車場をお借りしてひとり親家庭等に生活応援BOX(日用品、一言メモ 生活用品)を配布しました!

生活支援サービス(ちよいてつ)

沼津市社協では、ちょっとした困りごと(ゴミ出し、電球交換、話し相手など)を住民同士の力で助け合う、ちよいてつサービスという生活支援制度を運営しています。

地区、企業向けに随時説明会を実施しています。一言メモ

災害ボランティア活動

地震や津波、豪雨など自然災害が発生した際に、主に被災地で活動するのが災害ボランティアです。活動内容は、がれきの撤去や清掃、物品の仕分け、炊き出しなど多岐に渡ります。災害はいつ起こるかわからないので、平時からの取り組みが大切になります。災害について理解を深める養成講座に参加することも社会貢献のひとつと言えます。

被災直後の混乱が収まってきたら、被災地で生産されたものを購入したり、観光で訪れたりすることも復興支援につながります。一言メモ

居場所の立ち上げ

不登校、貧困、病気や人間関係の悩みといった複雑な境遇にある子どもたちに必要なのが、受け入れてもらえる居場所です。安心できる場所を提供するとともに、子どもの学習支援やレクリエーション活動などを通して子どもの自己肯定感を高くし、貧困や孤独・孤立の解消、コミュニティの再生などの役割も担います。

沼津市社協では子どもの居場所に関する相談を受け付けています。またボランティア募集やお金、場所など運営に必要なものに対する支援も行っています。一言メモ

赤い羽根募金箱設置

毎年10月1日から翌年3月31日まで全国一斉に募金活動を実施しています。街頭募金をはじめ学校募金、企業募金、設置募金、ネット募金、戸別募金など様々な団体にご協力いただき募金活動を行っています。沼津市で集まったお金の約7割が沼津市の福祉(子育て支援、高齢者支援、障がい者支援、被災地支援)に役立てられます。

大募集中 赤い羽根募金箱設置企業様



障がい者の就労を支援する作業所の機器や子ども食堂の機器、地域のイベント(クリスマス会、どんど焼き、餅つき)などに使われています。一言メモ

寄付

少子高齢化が進む中、より充実した支援ができるよう広く多くのご支援を呼び掛けています。ぜひ沼津市で困りごとを抱えている人のサポーターになってください。

沼津市社協では季節の食品や家電、古切手、お米などの物品の寄付も受け付けております。必要な物は時々異なりますので、寄付を検討されている方はあらかじめご相談ください。



社会貢献は企業が行うものから個人で行うものまでたくさんの種類や方法がありますが、どれもが地域福祉を支える活動に繋がっています。地域のイベントに参加したりインターネットでできる募金活動をしたり、食品ロスを出さないよう意識することなども社会貢献のひとつです。まずは自分にできることから、社会貢献をはじめてみてはいかがでしょうか。

沼津市社会福祉協議会では、オンラインによる寄付を呼び掛けています。



Syncable

トップページ <https://syncable.biz/associate/numazu-shakyo>

オンライン寄付システム Syncable からのご加入が可能です。銀行振込の他、クレジットカードや Amazon Pay でお振込ができます。ご協力いただける方は Syncable 寄付フォームからお申し込みください。また、沼津市社協への寄付は寄附金控除の対象(2,000円以上)になります。企業も控除を受けることが可能です。寄付金控除の詳細については最寄りの税務署へご照会ください。



寄付フォーム

3 福祉教育の進め方

福祉教育「学びのプロセス」の提案

福祉教育の目的は、知識の伝達をすることではありません。地域住民同士でともに助け合うことの大切さを感じ、地域に暮らす1人としてできることは何かを考え、行動するための力を育むことです。誰もが住み慣れたまちでいつまでも心豊かに暮らせる地域づくりのために自分には何ができるかを考え、実践することができるようになるために計画します。そのためには、様々な人たちとの出会いや成功体験を意図的に設定していく必要があります。

協力者に企画の段階から参加、協力してもらい、お互いの立場や参加者に対する思いを共有することが大切です。それと同時に、福祉教育の担当者はその参加者に対して、何を学んでほしいのかを明確にし、理解してもらう必要があります。目的を持った福祉教育に取り組むことで、参加者が成長し、地域の力が向上することを目指します。

STEP 01

導入、事前学習

ねらいを設定する

興味・関心・意欲の向上

調べ学習・聞き取りなど

福祉教育を進めていくにあたり、重要になってくるのが導入と事前学習です。単に体験を行うだけでは参加者は「楽しかった」「怖かった」という感想や意見を持つだけで終わってしまいます。何のために福祉に関する講話を聴き、体験をするのか、参加者が事前学習で理解し、体験後に自分たちでできることを考え、実践していくことが大切です。そのためにも、導入と事前学習をお願いしています。充実した体験を行うためにも、ぜひご協力をお願いします。



STEP 02

講話、体験

体験学習

事前学習を生かしたプログラムの実施

講話や体験は実感として伝わり、参加者に【気づき】を与えます。そして、その気づきを得ることで参加者は多くの感想や意見を持ちます。また、そのような経験をすることで、いままで参加者にとって決して日常的ではなかったことを身近に考えるきっかけ作りになります。講話を聴いて、体験を行って何を思ったのか、どのような体験だったのかを記録、記憶に残していくことが必要です。



STEP 03

振り返り、事後学習

グループワークで感想を共有
気づき、考えたことの意見交換

様々な意見を聞き、新たな課題を見つける

新たな課題から、行動へ

自分でもできることを考え、実践していく

振り返りや事後学習も福祉教育において欠かせないもののひとつです。活動を通じて何を思ったのか、何ができると思ったのかなど、自分を客観的に見つめなおすことで新しい気づきが生まれます。また、グループワークなどで話し合うことで、新しい考え方や自分にはなかった新鮮な意見も取り入れることができます。次のステップへつなげていくためにも、振り返りや事後学習は必ず行うようにしましょう。



福祉教育のお申し込みについてのお願い

お申し込みについて

実施希望日の1ヶ月前までに、沼津市社協に電話にてお申し込みください。講師等、スケジュールを確認次第、折り返しご連絡させていただきます。ご希望される体験の内容や、人数によって実施形態が変わってきますので、まずはご相談ください。

- 講師やボランティアの方々はそれぞれの分野で活動を行っておりますが、同時に仕事やご家庭をお持ちです。
- ご希望の日時や内容にお応えできない場合もございますので、実施希望日を複数ご用意ください。

電話 **055-922-1500** (沼津市社協)

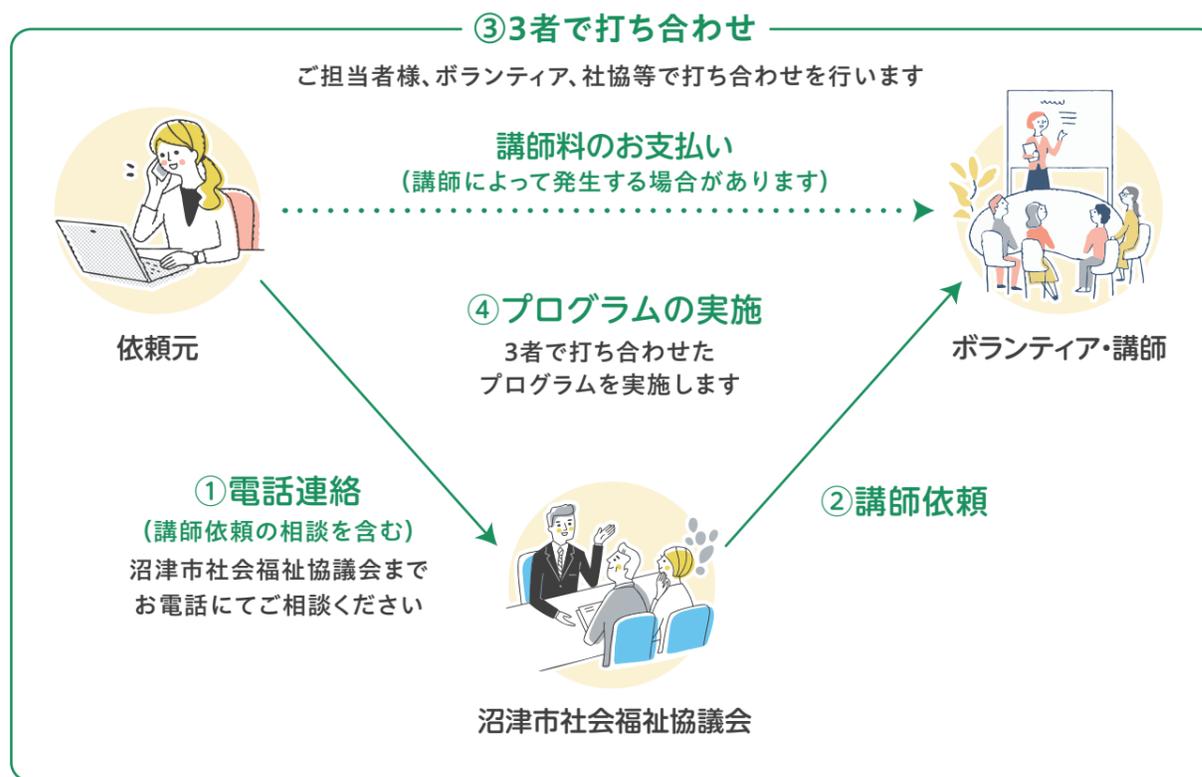
お願いしたいこと

- 体験学習を円滑に進めるため会場の準備、片付けにご協力ください。
- 当日、または前日に搬入、搬出をお願いする場合がございます。その際には、あらかじめ沼津市社協福祉教育担当者よりご連絡をさせていただきます。

必要な器具などは貸し出しをしております



実施までの流れ



福祉教育プログラム表

興味のある講座、時間や対象者、方法につきましては一度、沼津市社協 福祉教育担当者までご連絡ください。

NO.	分野	講座名	講座の内容	対象者	人数	時間(目安)	講師
1	地域福祉	福祉講話	●施設見学(サンウェルぬまづ、千本プラザ)(※1) ●福祉ってどういう意味?	小学生 中学生 大学生 一般	~200名	45分 50分	沼津市社協
	① 福祉全般	福祉ってなんだろう?	●福祉ってなんだろう? ●つながりマップを作ろう ●グループワークを通して多様性を学ぼう	小学生 中学生 大学生 一般	~200名	45分 50分	沼津市社協
	② 障がい全般	ユニバーサルデザインとバリアフリー	●障がいて何? ●障がいのある方と接する時に心がけること ●自分たちができることを考えよう	小学生 中学生 大学生 一般	~200名	45分 120分	沼津市社会福祉施設連絡協議会 沼津市社協
	③ 地域福祉	ボランティア活動について知る	●ボランティアって何? ●どんなボランティアがあるの? ●沼津市のボランティア活動の状況	小学生 中学生 大学生 一般	~200名	45分 50分	沼津市社協
	④ 地域福祉	支え合いの地域づくり	地域の高齢者を支え合う取り組みを学び、自分たちができることを考えよう(講話→グループワーク)	中学生 大学生 一般	~200名	60分 100分	沼津市社協
2	身体障がい	車いす体験	●車いすの操作 ●車いす体験 ●使う人の気持ちを考えてみよう ●介助の仕方を学ぼう	小学生 中学生 大学生 一般	~40名	45分 60分	沼津市社協
3	視覚障がい	見えない生活 盲導犬って何?	●見えない人に会った時どうする? ●盲導犬との生活 ●盲導犬と会った時、心がけること	小学生 中学生 大学生 一般	~40名	45分 60分	盲導犬 ユーザー(※2) 補助犬支援センター より派遣
4	視覚障がい	アイマスク体験	●見えない世界を体験してみよう ●自分たちができることを考えてみよう	小学生 中学生 大学生 一般	~40名	45分 60分	点訳グループ かたつむり(※3) 沼津市社協
5	視覚障がい	点字体験	●点字って何? ●点字を読んでみよう ●点字器を使って文字を打ってみよう	小学生 中学生 大学生 一般	~40名	45分 60分 (2回)	点訳グループ かたつむり(※3) (福)沼津市社協
6	視覚障がい	手話講話	●聞こえない人に会ったらどうする? ●手話を使って話をしてみよう ●言葉を使わないコミュニケーションのとり方	小学生 中学生 大学生 一般	~60名	60分 100分	手話通訳者の会
7	高齢者	高齢者疑似体験	●高齢者疑似体験をして お年寄りの気持ちを考えてみよう ●自分たちができることを考えてみよう	小学生 中学生 大学生 一般	~60名	45分 100分	沼津市社協
8	地域福祉	募金活動をしてみよう(※4)	●赤い羽根共同募金って何? ●募金の使い道について ●募金活動について ●みんなにできること	小学生 中学生 大学生 一般	20名 40名	45分 60分	沼津市社協
9	地域福祉	ポッチャ体験	●ポッチャのルールについて知る ●練習試合体験	小学生 中学生 大学生 一般	20名 40名	45分 60分	沼津市社協
その他	権利擁護	障がい者の権利ってどうなってるの?	●親亡き後の障がい者の支援について ●地域の中にある判断能力が低下している方について	中学生 大学生 一般	~200名	60分 100分	沼津市社協
	視覚障がい	硬貨体験	●見えない人はどうやってお金を払うの? ●見えない世界でお金を出してみよう	小学生 中学生 大学生 一般	~40名	45分 60分	沼津市社協
	高齢者	認知症サポーター養成講座(※5)	●認知症について知ろう ●認知症の人と会ったらどうする? ●認知症サポーターになろう	小学生 中学生 大学生 一般	~200名	90分 120分	沼津市認知症 キャラバンメイト 各地域包括 支援センター

※沼津市社協に対して謝礼金をご用意いただく必要はございません。

※1「施設見学」につきましては事前にご相談ください(おおよそ1か月前まで)

※2「盲導犬ユーザー」様に講話を依頼する場合、謝礼金(1万円)をご用意いただいております

※3「点訳グループかたつむり」様に講話を依頼する場合、謝礼金(交通費)をご用意いただく場合がございます。

※4「赤い羽根共同募金」につきましては運動期間(10月1日~3月31日)がありますので、募金活動を希望される場合はご注意ください。

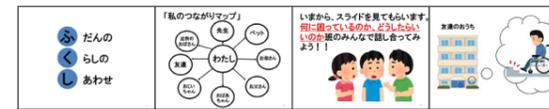
※5「認知症サポーター養成講座」につきましては各学区の地域包括支援センターまたは沼津市社協までご相談ください。

プログラム1	福祉講話	授業時間	約45分
対象	小学生、中学生、大学生、一般		
内容	①「福祉ってなんだろう?」 ②「ユニバーサルデザインとバリアフリー」 ③「ボランティア活動について知る」 ④「支え合いの地域づくり」(グループワーク) ⑤「成年後見制度について」*要相談		
効果	体験する前に自事前学習を行うことで、体験した際の気づきや吸収力が高くなるのが期待できます。		
一言ポイント	何を学びどのように考えてほしいのか、目的を明確にして取り組むことでより充実した体験になります。		



①「福祉ってなんだろう?」

福祉という言葉は漠然と知っていても、それだけでは地域や人々の幸せに結びつきません。普段の生活に着目し、福祉とは障がい者や高齢者など限られた人のもではなく誰もが普段の暮らしの中で感じるものであることを学びます。普段からは繋がりがあって生活していることを意識し、困った時には声掛けをするなど、その時自分ができることを考えるきっかけ作りをします。



③「ボランティア活動について知る」

沼津市社協ではボランティアセンターの運営を行っています。どんなボランティア団体がセンターに登録されているのかを紹介しながら、沼津市のボランティア活動の状況について説明します。興味や関心のあるボランティアを見つけるきっかけ作りになり、主体的にボランティアについて調べたり、活動に参加したりすることに繋がります。



⑤「成年後見制度について」*要相談

沼津市社協では、沼津市より委託を受け、沼津市成年後見支援センターを運営しています。成年後見制度に関する相談や広報をするとともに市民後見人の育成や相談などの支援を行っています。その事業内容を踏まえた成年後見制度の役割や内容についての説明などを実施します。
※専門性の高い内容になりますので、開催をご希望の場合はご相談ください。

②「ユニバーサルデザインとバリアフリー」

身近なバリアフリーを取り上げ、どのような工夫がされているのかをクイズ形式で展開していくことで適度な達成感を味わい、楽しみながら学習します。普段の生活の中で目にする機会があるバリアフリーやユニバーサルデザインについて誰のためにどんな工夫がされているのかを考えることで、共生社会の醸成を促します。



④「支え合いの地域づくり」(グループワーク)

「地域に住む高齢者を助けるサービスを開発しよう」などテーマに沿ったグループワークを実施します。他者の意見、価値観を受容するきっかけを作り、地域とともに歩む助け合いの精神をはぐくみます。その後、さらに発展的な活動として、グループワークで考えたアイデアを地域で実践することも視野に入れることができます。



プログラム2	車いす体験	授業時間	約45分
対象	小学生、中学生、大学生、一般		
内容	①車いすについて知る 安全に使うために知っておくこと・車いすの種類と各部の名前・操作方法 ②車いす体験 乗り方、たたみ方、段差、声掛け		
効果	車いすの操作方法を学ぶだけでなく、体験を通して介助者への理解を深め、移動の制約がある方への配慮など、普段の暮らしの中での気づきを促し、自分がどのようなことができるのかを考えるきっかけになります。		
一言ポイント	事後学習として身近なところにあるバリアフリーを調査した学校もあります。どんな場面を想定して、どのような工夫がされているのかなどをまとめ、学習することでより理解が深まります。		



プログラム6	手話講話	授業時間	約60分
対象	小学生、中学生、大学生、一般		
内容	①手話を使った挨拶を学ぶ ②当事者とコミュニケーションをとってみよう ③当事者による講話 ④当事者へのQ&A		
効果	手話を知ることで、普段の暮らしの中で聴覚障がいの方が不便に感じていることや、テレビの字幕など情報の伝達における様々な配慮に気づくことができます。		
一言ポイント	聴覚障がいのコミュニケーション手段としては、手話、指文字、筆談、口話、補聴器の使用などがあります。手話講話では手話を学ぶことが目的ではなく、聴覚障がい者とのコミュニケーションのあり方について関心を深めることが大切です。		



プログラム3	見えない生活 盲導犬って何?	授業時間	約45分
対象	小学生、中学生、大学生、一般		
内容	①盲導犬ユーザーによる講話 ②当事者へのQ&A		
効果	講話を通して、障がい当事者の方の気持ちや、普段の生活の様子などを知ることができます。目の見えない方への配慮など、これからの行動について考えるきっかけになります。		
一言ポイント	障がいがあってもできることはたくさんあります。してほしいこと、してほしいくないことなど当事者から学ぶ機会になります。		



プログラム7	高齢者疑似体験	授業時間	約45分
対象	小学生、中学生、大学生、一般		
内容	①高齢に伴う身体の変化について知る ②高齢者疑似体験（高齢者の気持ち、介助者の工夫等）		
効果	疑似体験を通して、高齢者への理解を深め、ささいなことでも本人からすると難しいこともあるのだと理解し、そのような場面で相手を思いやり、優しい声掛けができるようになります。		
一言ポイント	高齢者の大変さを学ぶだけでなく、疑似体験用具を装着している体験者を介助する体験も同時に行ない、体験を通して高齢者や介助者の気持ちも理解し、「他人事」ではなく「自分事」として身近に捉えられるようになります。		



プログラム4	アイマスク体験	授業時間	約45分
対象	小学生、中学生、大学生、一般		
内容	①視覚障がい者への支援の仕方について知る ②アイマスク・白杖体験		
効果	視覚障がいにより困ることやどのようなサポートが必要なのかを知り、障がいに対する理解を深めることができます。		
一言ポイント	関連して「盲導犬利用者の講話」、「硬貨体験」、「点字体験」もあります。これらの実施によって、さらなる理解につながります。		



プログラム8	募金活動をしてみよう	授業時間	約45分
対象	小学生、中学生、大学生、一般		
内容	①赤い羽根共同募金について知る ②街頭募金をやってみよう ※赤い羽根共同募金の運動期間（10月1日～3月31日）がありますので、募金活動を希望される場合はご注意ください。		
効果	集まったお金の使い道などを紹介することで興味・関心を持ち、プログラム後にも、赤い羽根共同募金が運営するイベントに参加するなど、チャリティに対する考え方や行動に変化が起こります。		
一言ポイント	地域で行われる歳末イベント（どんど焼き、クリスマス会、餅つき大会）などの身近なことにも赤い羽根共同募金のお金が使われています。		



プログラム5	点字体験	授業時間	約45分(2回)
対象	小学生、中学生、大学生、一般		
内容	①点字の書き方を学ぶ ②点字を使った名刺の作成		
効果	体験に触発され、点字に興味や関心を抱き、点字についてさらに調べたいという気持ちになったり、目の不自由な方々への福祉活動に関心を抱いたり参加したいという気持ちが芽生えます。		
一言ポイント	点字の基本ルールに着目し、それらの規則性を掴んで適度な達成感を味わい楽しみながら学習できます。		



プログラム9	ボッチャ体験	授業時間	約45分
対象	小学生、中学生、大学生、一般		
内容	①ボッチャのルールについて知る ②練習試合体験		
効果	障がいの有無、年齢に関わらず、みんなで楽しめるユニバーサルスポーツです。参加者間でコミュニケーションをとることで他者の意見や価値観を知り、認め合うことで共生社会の醸成につながります。		
一言ポイント	ルールはシンプルですが、試合の展開を考えながら投球するので戦略・戦術性が高く奥が深いゲームです。		

